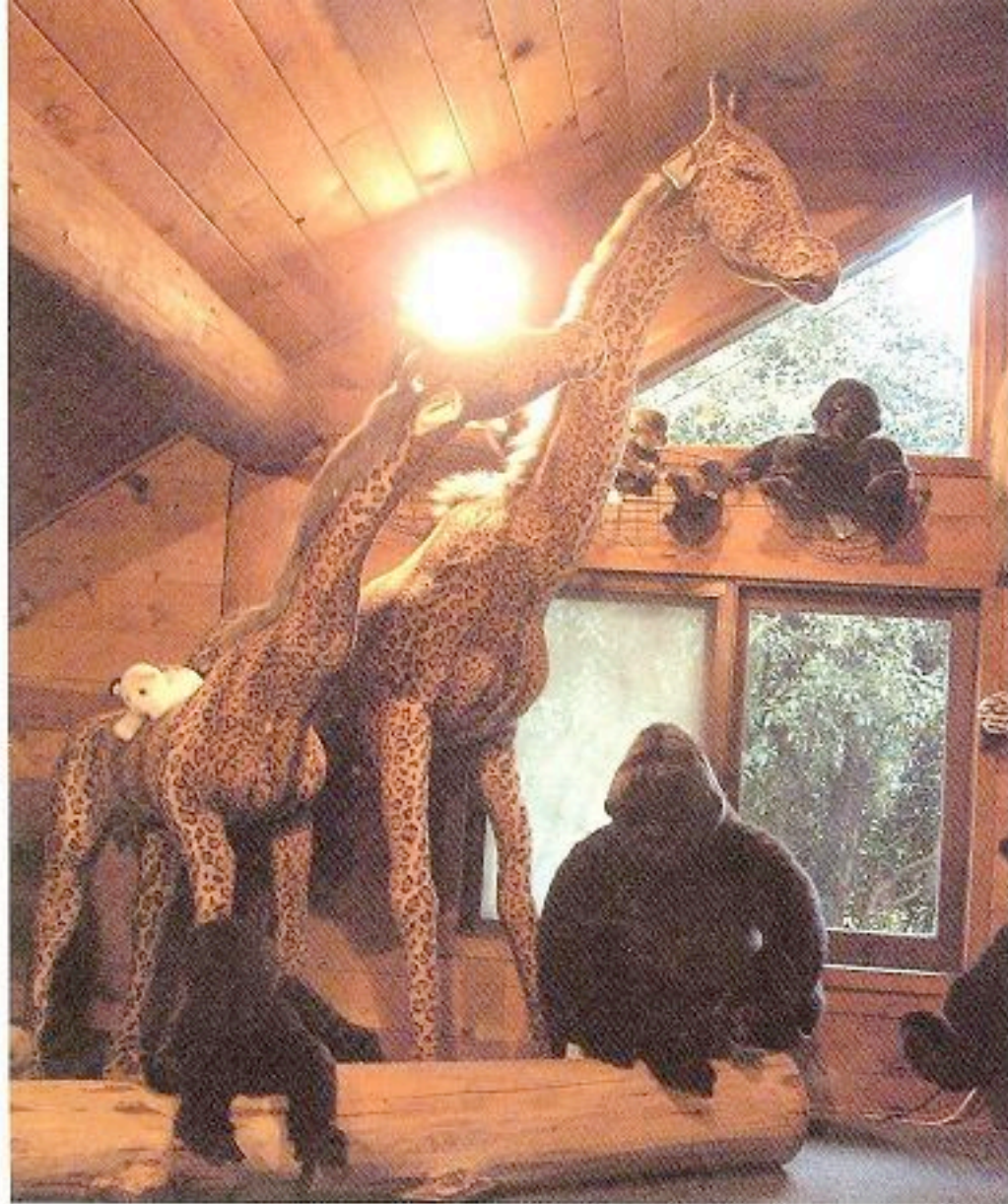


我がmy life



遠藤珠美さん
八郷町在住、「樹麻紅工房」主宰。
1969年よりフリーのデザイナーとしてCM、キャラクター、オリジナルなど多くの作品を手がける。日本橋高島屋、銀座博品館、銀座阪急等で個展開催。こんこんギャラリー、クラフトフェア等にも出品。

■樹麻紅工房
新治郡八郷町大増360-3
0299-44-3071
OPEN/土・日曜10:00~16:00

ぬいぐるみの動物園

八郷町の山あいの、くねくね道を進み、これ以上行ったら山の中に入ってしまうのでは、そう思ったときに「樹麻紅工房ぬいぐるみ病院」の看板を見つけた。小高い木に囲まれたなかにあるログハウスが「樹麻紅工房」である。ドアを開けると目に飛び込んできたのが、天井まで届きそうな、のっぴのキリン。そばにはゴリラ、窓辺にはニホンサル、子どもゴリラが座っている。ゾウ、ライオン、パンダ、犬、猫…まるで静かな動物園である。

動物たちの生みの親は、ぬいぐるみデザイナーの遠藤珠美さん。以前は東京でフリーのデザイナーとして活動していたが、14年前に八郷町に移り「樹麻紅工房」を開いた。「樹麻紅工房」の名前の意味は、ずばり「きまぐれ」。

「もともときまぐれが好きなんです。一生涯のなかにも、きまぐれがあるのが好き。木のオブジェを作ってみたり、染め物もやってみたり。「樹」は木、ぬいぐるみの布で「麻」、染色の「紅」。ほんどにきまぐれですね」



上/クリッと愛らしい目をした仔猫
下/ほほえましいパンダの親子

自然を求め、八郷に移住

遠藤さんはもともとファッションデザイナー。ファッション業界で働くうち、だんだん自分には合わないと感じてきた。そんな時、あるぬいぐるみデザイナーと出会い、ぬいぐるみの世界に飛び込む。3年間の勉強を経て27歳のときフリーになり、CMやキャラクター製作など、東京で活躍の場を広げていった。当時話題になった、衣料メーカーグンゼのキャラクター「でべそキヤット」などは記憶にある方もいるだろう。

都会で生活していたものの、もともと自然が好きだったので、自然があるところを探していた。ある時、たまたま八郷町を訪れたところ、丘陵地帯に広がる田園風景に、「まるでヨーロッパの田園のよう」とひとめぼれし、「ここに住もうと決めた」。

本物に近いリアルさを



毛並みが美しいオランウータン

ぬいぐるみというと、ふわふわして可愛らしいものというイメージがあるが、遠藤さんが手がけるぬいぐるみは違う。

「私が作るのは、ファンシーよりもリアルなぬいぐるみなんです。ライオンやヒョウなどは、野生動物の固く縮まった筋肉の質感、立体感などがリアル」